

## 論文

# 愛知大学名古屋校舎 2011 年度 Reading における 選抜クラス編成の成果と課題

—TOEIC IP テストスコアおよびアンケートの分析—

石 原 知 英

## 要 旨

本稿は、本学名古屋校舎で 2011 年度に開講された Reading I/II について、その習熟度別選抜クラス編成（発展・通常・基礎）の成果と課題を検討した。具体的には、入学時のクラス編成テスト、1 年終了時の TOEIC IP テスト、1 年終了時の英語学習に関するアンケートの 3 つの結果について、クラス種別に分析した。その結果、今回実施した選抜式のクラス編成は、基礎クラスの底上げについて成果が見られた一方で、発展クラスのさらなる伸びにはやや懐疑的な結果となった。また、目標とする TOEIC テストスコアおよび授業内外の学習時間についても、クラス種別による傾向の違いが見られた。

キーワード：愛知大学名古屋校舎 1 年生、英語、習熟度別クラス編成、TOEIC、学習時間

## 1 本学名古屋校舎 2011 年度の英語科目カリキュラムの特徴

### 1.1 概況

本学では、新カリキュラムの施行に伴い、2011 年度から名古屋校舎における英語カリキュラムが変更された。以下、本稿で検討する法学部及び経営学部における新旧英語カリキュラム（必修科目のみ）について詳述する。

## 1.2 必修単位数の増加と科目変更

変更点の1つは、必修単位数の増加と科目の変更である。

旧カリキュラムでは、1年次の「論説英文講読Ⅰ/Ⅱ」と「TOEIC Ⅰ/Ⅱ」（Ⅰ：春学期，Ⅱ：秋学期），2年次の「論説英文講読Ⅲ/Ⅳ」（Ⅲ：春学期，Ⅳ：秋学期）の計6単位が必修科目として設定されていた。「論説英文講読」<sup>1</sup>では、主にその後に履修する専門科目「外書講読」や「専門演習」などの科目への橋渡しのためのリーディング力の強化を、「TOEIC」では、英語によるコミュニケーション能力の育成とともに、就職活動をも視野に入れたスコア向上を、それぞれ主眼としており、どちらも法営両学部の学生が混在する35～40名程度のクラス編成であった。

新カリキュラムでは、1年次に「Reading Ⅰ/Ⅱ」と「Communicative English Ⅰ/Ⅱ」（Ⅰ：春学期，Ⅱ：秋学期），2年次に「Reading Ⅲ/Ⅳ」（Ⅲ：春学期，Ⅳ：秋学期）と「Practical English」（春学期），「TOEIC Ⅰ」（秋学期）の計8単位が必修科目として設定されている。このうち「Reading」は、旧カリキュラムにおける「論説英文講読」と同様の位置づけである。また「Practical English」および「TOEIC Ⅰ」は、これまで1年次に開講されていた「TOEIC Ⅰ」および「TOEIC Ⅱ」に相当するもので、「Practical English」という名称からも分かるように、実用英語への習熟を主眼としたものである。新しく開講された「Communicative English」は、全てネイティブ教員が担当する科目で、英語音声と会話表現への習熟を主眼としている。

このように新カリキュラムでは、必修科目が2単位増えて8単位となったことで、より充実した語学学習の機会を提供することが可能になった。また、それに伴う科目変更により、これまでの読解を中心とした書記言語に加え、音声言語への習熟を目指すカリキュラムとなっている。

表1 新カリキュラムの変更点

		旧カリキュラム	新カリキュラム
1年	春	論説英文講読Ⅰ	Reading Ⅰ
		TOEIC Ⅰ	Communicative English Ⅰ
	秋	論説英文講読Ⅱ	Reading Ⅱ
		TOEIC Ⅱ	Communicative English Ⅱ
2年	春	論説英文講読Ⅲ	Reading Ⅲ
			Practical English
	秋	論説英文講読Ⅳ	Reading Ⅳ
			TOEIC Ⅰ

### 1.3 Reading における習熟度別クラス編成の導入

もう 1 つの変更点は、Reading クラスの編成方針についてである。

旧カリキュラムにおける「論説英文講読」は習熟度別の編成ではなく、教科書の選定や進度、試験の実施、評価方法などが各担当者の裁量に任されていた。新カリキュラムでは、「Reading I/II」において選抜式の習熟度別クラス編成を行った。具体的には、まず通常クラスを編成し、その中から後述するクラス編成テストの得点により、上位 2 クラス（発展クラス）、下位 2 クラス（基礎クラス）を選抜する方式を取った。ただし、従来通り、教科書の選定や進度、試験の実施および評価の方法などは、各担当者の裁量に任された。

### 1.4 クラス編成方法

Reading I/II のクラス編成は、入学時（4 月）に実施した独自試験（クラス編成テスト）の得点を用いた。この試験は、本学教員が作成した全 75 問（45 分）の多肢選択問題で構成され、主に基礎レベルの語彙と文法の力を確認するものであった。問題形式は TOEIC テストの Part 5 に即している。

クラス編成に際しては、クラスサイズや選抜人数、得点の開きなどを考慮し、発展 2 クラス（HA クラス 21 名、HB クラス 24 名）および基礎 2 クラス（BA クラス 28 名、BB クラス 16 名）を選抜した。なお、通常クラスは概ね 35 名前後の編成となるため、選抜クラスはややクラスサイズが小さい。これは、上位層の力を伸ばすと共に、下位層の底上げを図るため、教員によるきめ細やかな対応を可能にするためである。

## 2 クラス編成テスト、TOEIC IP テスト及びアンケートの分析

### 2.1 クラス編成テストの結果

上述したクラス編成テストの結果について、クラス種別のスコアを表 2 に、スコアの分布を図 1 に示す。

表 2 クラス種別クラス編成テストスコア

	クラス数	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	95% <i>CI</i>	<i>min</i>	<i>max</i>
発展クラス	2	45	58.38	2.61	[57.59, 59.16]	56	67
通常クラス	23	778	40.00	8.13	[39.43, 40.57]	23	55
基礎クラス	2	44	18.86	2.47	[18.11, 19.61]	11	22
全体	27	867	39.88	10.01	[39.12, 40.55]	11	67

注．クラス編成テストは 75 点満点，*CI* = Confidence Interval

選抜クラス編成に際して議論になるのは、カッティングポイントをどこに引くかという点である。先述したように、選抜クラス編成の狙いは、上位層の力を伸ばすと共に下位層の底上げを図るため、教員によるよりきめ細やかな指導を可能にすることである。その一方で、通常クラスとの不公平感にも配慮する必要があった。つまり、きめ細やかな指導を可能にするクラスサイズであると同時に、極端な少人数クラスとならないような線を議論した。その結果、今回の Reading I/II クラス編成では、発展クラスについては56点を、基礎クラスについては22点をそのカッティングポイントとした。

## 2.2 TOEIC IP テストの結果

1 年次終了時の12月に、クラス編成の成果と課題を確認し、2 年次の Practical English および TOEIC I に向けたクラス再編のため、TOEIC IP テスト<sup>2</sup>を実施した。クラス種別のスコアを表3に、スコアの分布を図2に示す。

表3 クラス種別 TOEIC IP テストスコア

	クラス数	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	95% <i>CI</i>	<i>min</i>	<i>max</i>
発展クラス	2	42	466.43	125.68	[427.27, 505.59]	215	800
通常クラス	23	748	350.12	94.89	[343.31, 356.93]	20	630
基礎クラス	2	43	217.21	57.16	[199.62, 234.80]	105	390
全体	27	833	349.12	103.07	[342.11, 356.13]	20	800

注. TOEIC IPは990点満点, *CI* = Confidence Interval

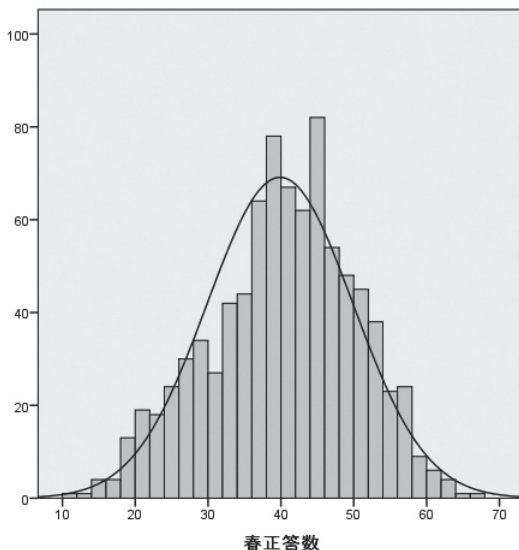


図1 クラス編成テストスコアの分布

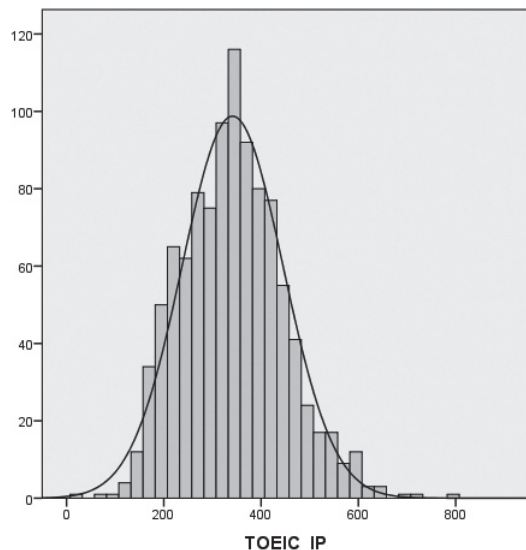


図2 TOEIC IP テストスコアの分布

## 2.3 テストスコアの関連

上述したクラス編成テストと TOEIC IP テストの関連について、その散布図を図 3 に示す。図中の直線は、各クラスの回帰直線を表している。なお、両テストスコアの相関係数は  $r = .62$  であった。

通常クラスの回帰直線に比べ、基礎クラスの回帰直線の傾きが大きい。これは、通常クラスに比べて基礎クラスのほうが、クラス編成テストのスコアからの伸びが大きい可能性があることを示唆している。一方で発展クラスは、傾きの緩い回帰直線が示されている。これは、クラス編成テストと TOEIC IP スコアの関連が比較的薄いことを示している。発展クラスは TOEIC IP スコアのばらつきも大きいようであり、スコアが伸びた学生とそうでない学生（伸び悩んだ学生）の差が開いた可能性がある。ただしこの解釈には、回帰効果（平均への回帰）の可能性を考慮に入れる必要があり、さらなる検討が必要であろう。

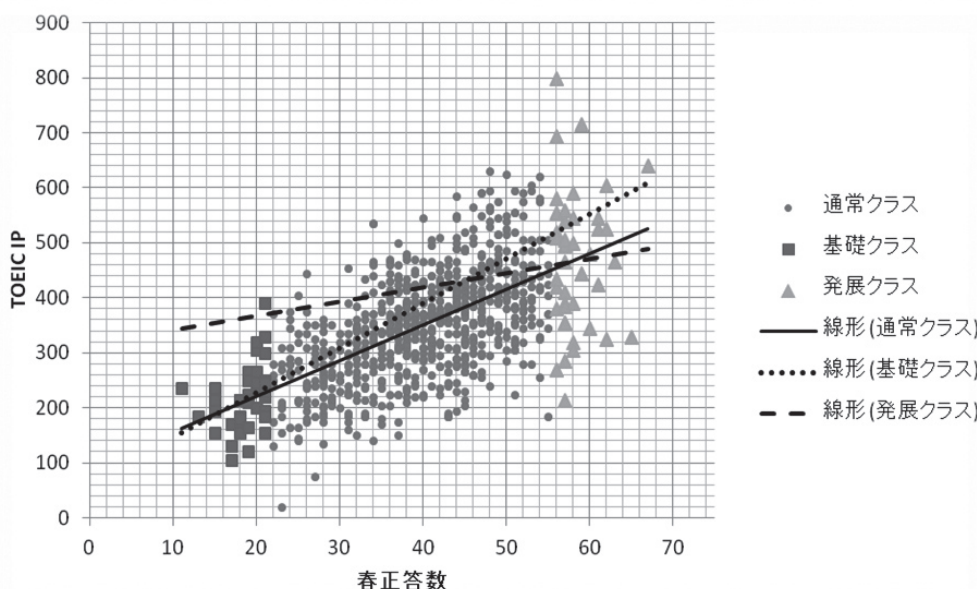


図 3 クラス編成テストスコアと TOEIC IP テストスコアの関連

## 2.4 アンケートの集計

12月に実施した TOEIC IP に際して、以下の項目についてアンケート調査を実施した<sup>3</sup>。その結果を表 4 に示す。

Q1. 秋学期の英語授業時間以外で、英語授業の予習、復習、宿題に1週間当たり平均何時間程度、費やしましたか。

- 0 全くしていない      1 30分未満      2 30分以上1時間未満  
 3 1時間以上1時間半未満      4 1時間半以上2時間未満      5 2時間以上2時間半未満  
 6 2時間半以上3時間未満      7 3時間以上

Q2. 秋学期の英語授業時間以外で、自主的な英語学習に1週間当たり平均何時間程度、費やしましたか。

- 0 全くしていない      1 30分未満      2 30分以上1時間未満  
 3 1時間以上1時間半未満      4 1時間半以上2時間未満      5 2時間以上2時間半未満  
 6 2時間半以上3時間未満      7 3時間以上

Q3. 卒業までに取得したいTOEICの目標点数は何点ですか。

- 0 400点程度      1 450点程度      2 500点程度      3 550点程度  
 4 600点程度      5 650点程度      6 700点程度      7 750点程度  
 8 800点程度      9 850点以上

表4 アンケート結果

		人数分布												
		<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
Q1	発展	42	2.38	1.77	10	2	11	6	9	2	2	0	—	—
	通常	735	1.73	1.53	188	182	162	104	65	16	14	4	—	—
	基礎	43	1.81	1.05	5	11	16	9	2	0	0	0	—	—
Q2	発展	42	1.36	1.62	17	11	4	5	4	0	0	1	—	—
	通常	734	0.78	1.26	428	170	79	23	16	8	2	8	—	—
	基礎	43	0.51	1.01	31	7	1	3	1	0	0	0	—	—
Q3	発展	42	6.02	1.79	0	1	0	1	6	8	10	8	3	5
	通常	730	4.26	2.15	55	30	80	37	190	125	136	29	25	23
	基礎	43	2.09	1.93	11	8	11	1	7	2	2	1	0	0

SPSS 19 によるクラスカル・ウォリスの順位和検定の結果、3つの質問についてクラス種による差は5%水準で有意であった (Q1:  $\chi^2(2, N = 820) = 7.15, p = .03$ ; Q2:  $\chi^2(2, N = 819) = 10.71, p = .01$ ; Q3:  $\chi^2(2, N = 815) = 64.66, p = .00$ )。ボンフェローニの方法によって水準を調整した上でマン・ホイットニーのU検定をペアごとに繰り返した結果、授業関連の学習時間 (Q1) については、発展クラスと通常クラスの間には有意な差がみられた ( $U = 12024.5, p = .014$ )。自主的な学習時間 (Q2) については発展クラスと通常クラス ( $U = 11992.5, p = .007$ )、発展クラスと基礎クラス ( $U = 593.5, p = .002$ ) の間にそれぞれ有意な差がみられた。目標スコア (Q3) については、各クラス種間で有意な差がみられた (発展・通常:  $U = 8122.5, p = .000$ ; 発展・基礎:  $U = 147.5, p = .000$ ; 通常・基礎:  $U = 7246.5, p = .000$ )。

授業関連の家庭学習時間を毎週1時間から1時間半程度とすると、授業を含めた1単位当たりの学習時間が45時間となる。この点を鑑み、毎週1時間以上学習していると回答した学生の数 (選択肢で3以上をマークした学生) を集計すると、発展クラスでは42人中19人 (45.2%)、通常クラスでは735人中213人 (29.0%)、基礎クラスでは43人中11人 (25.6%) となる。ばらつきもやや大きくなっているが、これは教科書の選定や進度、試験の実施や評価方法などの授業運営について、各担当者の裁量に任されたため、クラス間で課される課題等の量に差が出たためであろう。

加えて自主的な学習時間については、発展クラスがその他のクラスに比べて有意に多いものの、すべてのクラス種別において0と解答する学生が多いことが明らかとなった (発展: 40.5%, 通常: 58.3%, 基礎: 72.1%)。

TOEIC の目標スコアについては、基礎<通常<発展という傾向が読み取れる。基礎クラスでは下限の400点程度という目標 (回答0) に履修学生の4分の1が集まっており、スコア取得への関心の低さがうかがえる。一方、通常クラスでは600点から650点程度、発展クラスでは700点程度を中心に、学生の目標スコアがばらついているようである。この結果は、現在の学生のニーズと2年次以降の Practical English 及び TOEIC I 両科目への期待を表している。そのため、ある程度の数の学生が各自の目標スコアに到達できるような支援体制が求められるだろう。

### 3 現行のクラス編成方法の成果と課題

これらの結果を踏まえ、現行のクラス編成方法の成果と課題について3点指摘する。

第1に、今回の選抜式のクラス編成により、基礎クラスの底上げをある程度達成したという点が指摘できる。TOEIC IP のスコアとしては平均で200点台であり、十分なスコア



とは言えないものの、クラス編成テストスコアとの関連からみると、他のクラス種別に比べて伸び幅が大きいようである。家庭学習時間についても、他のクラス種別に比べて値が小さいものの、英語を苦手とする学生が毎週1時間程度の学習を継続しているという点を評価する必要がある。今回の選抜方式によるクラス編成では、全クラスの規模を小さくすることに比べてそのコストを抑えつつ、基礎クラスにおいて一定の成果を得た。これは、この選抜方式の利点であったと総括できる。ただし、TOEIC スコア取得への関心や期待がやや低い点については、懸念が残る。TOEIC テストは、基礎クラスの学生にとってはやや難易度が高く、諦念があるのかもしれない。卒業時までには一定のスコアに到達できるよう、次年度の Practical English および TOEIC I のクラス、さらには3年次以降の選択科目等において、継続的な支援が求められるだろう。

第2に、発展クラスにおける TOEIC IP スコアの分布がややばらついている点は、今後の課題として指摘できる。これはすなわち、上位層を伸ばすという選抜クラスの目的が、それほど効果的に達成できていない可能性を示唆している。家庭学習の量や TOEIC の目標スコアを合わせて考察すると、高い意識を持って学習を継続している学生と、そうでない学生がばらつく結果であったように読み取れる。先の基礎クラスの様子を兼ね合わせると、現行の発展2クラス・基礎2クラスという選抜クラス数について、再考の余地があるかもしれない。つまり、発展1クラス・基礎3クラスという編成の場合、同じコストでより高い成果を生む可能性がある。

第3に、クラス編成テストの信頼性の問題を指摘しておく必要があろう。今回のクラス編成には、独自のクラス編成テストを用いたため、各設問の信頼性や弁別力を考慮しない75点満点の4択式の設定で、その単純な総和によって得点を求めた。この方法は、集計が簡便であるという利点がある一方で、テストスコアの信頼性を損ね、引いてはクラス分けの妥当性を低下させることになる。具体的には、テストスコアの期待値が18.75点であり、ランダムにマークしても19点近く取れる可能性があるということである。カッティングポイントを22点としたため、基礎クラスに振り分けるべき学生が通常クラスに入っている可能性が高い（またその逆もありうるだろう）。

試験の実施からクラス編成までの時間が限られている点を踏まえると、現実的な改善策としては、(1) 選択肢の数を増やすこと、(2) 弁別力指数の低い項目を削除して集計すること、などの方策が考えられる。作問および集計作業の手間が課題となるが、より信頼性の高い試験を実施することはカリキュラムの教育効果に寄与すると考えられるため、今後発展的な議論が必要となる。また、2010年度には、TOEIC I のクラス編成のために TOEIC Bridge を導入したが、このように外部試験を活用するのも一考の余地があろう。<sup>4</sup>

クラス編成の方法には、今回実施した選抜方式、昨年度の TOEIC I/II で実施した完全習



## 愛知大学名古屋校舎 2011 年度 Reading における選抜クラス編成の成果と課題

熟度別の方式,あるいは習熟度別の編成をしない方式など,様々なやり方があるが,当然それぞれの方法に利点と欠点がある。また,教室数や教員の配置,時間割編成上の問題など,実務的な制約もある。そうした点を踏まえながら,より効果的な教育を提供できる仕組みを考えていくことが肝要である。

### 註

- 1 旧カリキュラムでは,「論説英文講読」と読み替え可能な「特別基礎英語」が,留学生とスポーツ推薦入学者で希望する者を対象に開講されていた。「特別基礎英語」の履修者は,履修登録後にクラス編成試験を受け,所定の点数に届かない者のみが履修を許可される(所定の得点以上の学生は「論説英文講読」を履修することになる)。
- 2 TOEIC IPテストは,TOEICテストの団体受験特別制度(IP: Institutional Program)であり,実施日時を自由に設定できるという利点がある。テストの構成や実施時間,スコアなどはTOEIC公開テストと同様であり,リスニング100問リーディング100問の構成で990点満点(10点から990点まで5点刻み)ある。
- 3 実際のアンケートでは,自習学習の方法,TOEICについての知識,TOEICスコアの必要性についても尋ねているが,本稿の分析では扱わない。
- 4 2010年度に開講されたTOEIC Iでは,TOEIC Bridgeを用いた完全習熟度別のクラス編成による授業実践が行われた。その詳細については石原(2010)を参照されたい。

### 引用文献

石原知英, (2010), 「愛知大学名古屋校舎 2010 年度入学生の英語力の推移—TOEIC クラスの運営を中心に—」『愛知大学語学教育研究室紀要 言語と文化』25, 1-16.

## 付録 クラス別テストスコア

		クラス編成テスト (4月)				TOEIC IP (12月)			
		<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	95% <i>CI</i>	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	95% <i>CI</i>
発展	HA	21	60.48	2.46	[59.36, 61.60]	20	473.25	115.92	[419.00, 527.50]
	HB	24	56.54	0.51	[56.33, 56.76]	22	460.23	136.36	[399.77, 520.69]
通常	A	34	39.97	7.97	[37.19, 42.75]	33	386.21	96.47	[352.01, 420.42]
	B	35	40.26	7.94	[37.53, 42.98]	34	359.12	84.93	[329.48, 388.75]
	C	35	40.83	9.80	[37.46, 44.19]	33	357.88	107.31	[319.83, 395.93]
	D	33	39.09	8.59	[36.05, 42.13]	32	345.78	102.20	[308.94, 382.63]
	E	36	40.14	8.23	[37.35, 42.92]	36	351.39	88.86	[321.32, 381.46]
	F	35	42.83	7.90	[40.12, 45.54]	33	398.33	90.74	[366.16, 430.51]
	G	34	42.62	7.14	[40.13, 45.11]	34	363.09	84.20	[333.71, 392.47]
	H	35	40.54	8.40	[37.66, 43.43]	34	365.59	105.28	[328.85, 402.32]
	I	34	41.38	8.12	[38.55, 44.21]	31	376.61	91.87	[342.91, 410.31]
	J	31	42.52	6.57	[40.11, 44.93]	30	352.17	87.79	[319.39, 384.95]
	K	33	40.82	7.93	[38.01, 43.63]	31	344.35	78.20	[315.67, 373.04]
	L	31	38.61	7.73	[35.78, 41.45]	30	334.50	94.24	[299.31, 369.69]
	M	36	37.97	7.31	[35.50, 40.44]	36	349.58	85.54	[320.64, 378.53]
	N	30	39.37	7.81	[36.45, 42.28]	28	345.36	114.76	[300.86, 389.86]
	O	35	39.06	8.29	[36.21, 41.90]	34	310.88	66.70	[287.61, 334.16]
	P	34	39.59	6.73	[37.24, 41.93]	34	342.50	71.94	[317.40, 367.60]
	Q	35	38.83	8.96	[35.75, 41.91]	34	309.71	113.22	[270.20, 349.21]
	R	35	39.03	8.84	[35.99, 42.06]	35	356.14	94.25	[323.77, 388.52]
	S	35	39.43	8.34	[36.56, 42.29]	32	343.44	104.85	[305.64, 381.24]
	T	34	41.21	7.24	[38.68, 43.73]	32	377.81	87.89	[346.13, 409.50]
	U	34	40.03	8.14	[37.19, 42.87]	33	346.82	91.63	[314.33, 379.31]
	V	33	38.18	8.08	[35.32, 41.05]	30	315.00	83.78	[283.72, 346.28]
	W	31	37.55	9.73	[33.98, 41.12]	29	313.79	112.02	[271.18, 356.40]
基礎	BA	28	20.36	0.95	[19.99, 20.73]	28	235.89	57.54	[213.58, 258.21]
	BB	16	16.25	2.08	[15.14, 17.36]	15	182.33	37.60	[161.51, 203.16]